

COLUMN | AI活用 | 株式会社DnD

RAGとは何か 社内マニュアルをAIに読み込ませて 質問に答えさせる仕組みと始め方

社内文書をAIの「参照元」にする検索拡張生成（RAG）の仕組みと、
中小企業がノーコードで今日から試すための考え方をまとめた図解資料です。

発行：2026年7月6日

株式会社DnD
<https://dnd-inc.jp/>

この資料の要点

- ・ RAGとは、自社の文書をAIに読み込ませ、その内容を根拠に質問へ答えさせる仕組みのこと。
- ・ 通常のChatGPTは自社固有の情報を知らないが、RAGは社内文書を参照元にするので精度が高い。
- ・ NotebookLMやClaude Projectsを使えば、今日から5~10ファイルで試せる。

RAGとは何か——「検索してから答える」AIの仕組み

RAGは「Retrieval-Augmented Generation」の略で、日本語では「検索拡張生成」と呼ばれます。やっていることはシンプルです。

質問が来たら、まず社内文書を検索して関連箇所を見つけ、その内容を参照してから回答を生成する。

ポイントは、AIが「自分の知識だけで答える」のではなく、「指定された文書を根拠に答える」点です。これにより、自社固有の情報——社内規程、製品仕様書、業務マニュアル——に基づいた回答が返せるようになります。

普通のChatGPTと何が違うのか

通常の生成AIは学習データに含まれる一般的な知識で回答します。そのため次の限界があります。

- ・ 自社の就業規則や経費精算フローは知らない。
- ・ 自社製品の独自仕様や価格体系は答えられない。
- ・ 「それらしい回答」が出るが、根拠が不明瞭でミスが混じる（ハルシネーション）。

RAGはこれを解決します。社内文書を「参照できる本棚」としてAIの隣に置き、回答時に必ず本棚を引いてから答えさせる仕組みです。

RAGで使われる社内文書の例

- ・ **人事・総務**：就業規則、経費精算規程、休暇取得の手続き
- ・ **営業**：製品カタログ、よくある質問集（FAQ）、過去の提案書
- ・ **製造・現場**：作業手順書、品質チェックリスト、設備マニュアル
- ・ **カスタマーサポート**：対応スクリプト、クレーム処理フロー、製品仕様一覧

共通するのは「答えが既にドキュメントに書いてある」種類の質問です。情報検索・確認系の問い合わせに大きな効果を発揮します。

今すぐ始められる主なツール比較

NotebookLM (Google)

PDFや文書ファイルをアップロードして質問できるGoogleのツール。無料で使え、操作はドラッグ&ドロップのみ。回答時に「この文書の何ページに書いてある」という引用元も表示されます。RAGを体験したい最初の一步に最適です。

Claude Projects (Anthropic)

Claudeの有料プランで使える機能。プロジェクトにファイルを格納しておくこと、同じプロジェクト内の会話では常にそのファイルを参照して回答します。

Dify (セルフホスト型)

オープンソースで自社サーバーで動かせます。機密度の高い文書を扱うならセルフホスト型が安心です。ファイル管理・検索戦略・回答形式まで細かく設定でき、チャットボットやAPIとしても公開できます。

RAGを始める4つのステップ

- ① **文書を選ぶ**：最も問い合わせが多い業務のマニュアルや規程を5~10ファイル選ぶ。
- ② **試す**：NotebookLMやClaude Projectsにアップロードして「想定される質問10問」を当ててみる。
- ③ **運用ルールを決める**：使う部署・目的・最終確認のルールを定める。
- ④ **拡大・改善**：効果を確認したら対象文書を増やし、精度が低ければ文書の整理から見直す。

株式会社DnDへのご相談

RAGの設計・構築から社内文書の整理・運用定着まで、業務効率化を支援しています。まずは現状の課題をお聞かせください。ご相談・お見積りは無料です。

お問い合わせ：<https://dnd-inc.jp/contact.html>